

〔I〕 15<sup>h</sup>00<sup>m</sup> (第6図) 各地の温度勾配はゆるく、  
 空気温度もほぼ一様化している。それは14<sup>h</sup>頃で気温  
 上昇は頭打ちとなり、徐々に日射が弱くなっており、激  
 しい熱量の出入の差がないためであろう。高台と濠の水  
 面上が冷温域で、ビルディング街が高温域であることが  
 目立つ。

〔II〕 18<sup>h</sup>00<sup>m</sup> 日没をすぎ、熱量の出入の均 衡が破  
 れ、気温は急勾配で下る。濠の水温と、気温がほぼ等し  
 いため、濠の影響は少ない。日中濠の水面の気温が低い  
 のは水温が低いのと水の蒸発により潜熱を奪われること  
 の両方によるものと思われる。日没後高台には気温が降  
 下するが、ビルディング街はまだ高温域である。

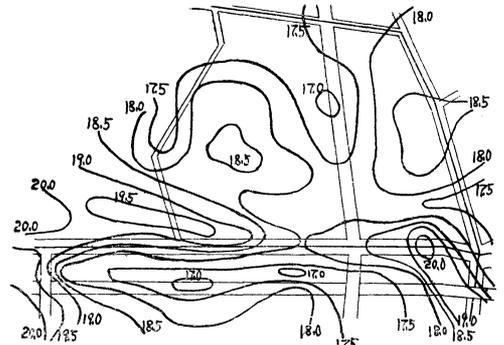
〔III〕 21<sup>h</sup>00<sup>m</sup> 濠の水温と気温が 3~5 °C の差を示  
 し、濠の影響による暖域が次第にはっきりしてくる。高  
 台の冷温域が下がってゆくのは、冷気が低下するのを示  
 すものであろう。神楽坂の裏(右横)へ冷気が侵入し、  
 神楽坂へは高温域が伸びているため、神楽坂繁華街では  
 温度勾配が急である。

〔IV〕 00<sup>h</sup>00<sup>m</sup> ビルディング街の高温域は消滅した。  
 高台の冷気は濠上の暖気のため、これ以上低下するこ  
 とができないようである。

〔V〕 03<sup>h</sup>00<sup>m</sup> 気温勾配はゆるやかになり、空気温度  
 も一様化しているように思われる。高台と濠の影響が  
 最もけん著に現われている。

出は 05<sup>h</sup>59<sup>m</sup> であるが、早くもビルディング街が高温域  
 となってきている。空気の混合が徐々に行われ、熱の激  
 しい出入が無いため、気温勾配は極くゆるい。

〔VII〕 09<sup>h</sup>00<sup>m</sup> 日出後3時間経過して、各地の気温は  
 急勾配で上昇し、等温線も密になってきた。09<sup>h</sup>00<sup>m</sup> に  
 は水温と気温が等しくなるので、濠の影響は少なく多少  
 冷域となっているだけである。高台の低温域ははっきり  
 し、またビルディング街の高温域が張りだしてきてい  
 る。神楽坂が朝方低温域であるのも興味深い。

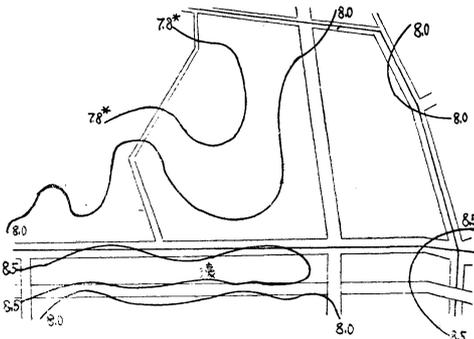


第8図 1957年10月28日 12<sup>h</sup>00<sup>m</sup> の気温分布

〔VIII〕 12<sup>h</sup>00<sup>m</sup> (第8図) 濠が低温域をはっきり示し、  
 高台も低温域であるため、その間の平地に高温域が割り  
 込んで、これまでにない形の複雑な分布となった。高  
 台の冷気は、平地の暖気に押し上げられ後退している。

8. あとがき

以上述べた気温の水平分布についての報告で、我々は  
 その観測方法、測器、結果の分析に決って満足してい  
 るものではない。この際も少くとも風向だけでも観測す  
 べきであったと思う。われわれの最終目的は、神楽坂の  
 東京理科大学付近の空気の運動、および熱の移入を知る  
 ことにある。そこで今後、気温とともに、風向風速湿度  
 の同時観測を行う予定である。この文献の中にも多々誤  
 まりがあるろうし、また今後の仕事にわれわれの手に負え  
 ぬことがしばしば生ずると思うが、先輩諸兄のご忠告を  
 得られれば幸甚である。



第7図 1956年10月28日 06<sup>h</sup>00<sup>m</sup> の気温分布

〔VI〕 06<sup>h</sup>00<sup>m</sup> (第7図) 水温と気温の差が最大とな  
 ったため、濠による暖気がかなり高台に侵入している。日

雲 鏡

研究にもフェア、ブレーを

先日某氏が某課の調査資料を使って論文に発表したこ  
 とから問題がおきたと聞いた。詳しいいきさつは知らない  
 が、そう云う出来事の起らないようお互に気をつけた  
 いものである。

これと話は違うが、調査の途中で貸した資料が印刷さ  
 れてびっくりしたこともあり、貸した資料がとうとう返  
 らなかったこともある。また図は利用されたが、文献等  
 は引かれてなかったこともあるし、同じ方法を採用しな  
 がら引用されなかった場合もある。私1人でこうだから、  
 おそらくこう云うことは無数に行われているのであ  
 ろう。今年もある医学者が外国の論文と同じものを論文

として提出して、新聞の話題になった。気象界でもか  
 って気象集誌に印刷になった論文が外国論文と同じだと云  
 って外国から抗議が来たことがある。編集者も外国雑誌  
 を全部読むわけには行かないから、気象論文がめったに  
 載らないような外国雑誌にあるものは読まないこともあ  
 るのは止むを得ない。

調査結果が印刷にならないうちに貸すからいけないの  
 だ、と云う人があるかも知れない。そうすれば確かに問  
 題は起らないだろうが、次の人が利用するまでに時間が  
 かかり進歩もおそくなるだろう。印刷前でも大いに利用  
 し合うのが良い。しかしその時はお互に礼儀を守って、  
 借りた人の結果が印刷になるまでは、それを利用したも  
 のは発表をさしひかえるべきである。(A生)